

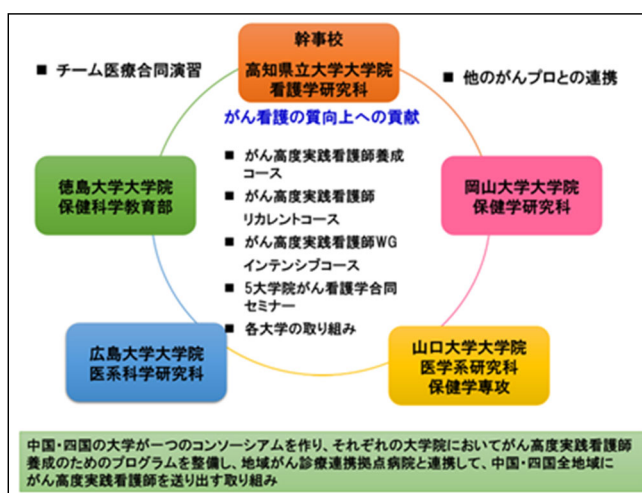
6. がんプロフェッショナル基盤推進プラン

1) はじめに

平成 29 年度から、文部科学省の多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン事業のもと、中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアムでも、「全人的医療を行う高度がん専門医療人養成」事業として様々な取り組みを行っている。本学は、高知県立大学大学院・岡山大学大学院・徳島大学大学院・広島大学大学院・山口大学大学院の 5 つの大学院で組織されるがん高度実践看護師 WG の幹事校として活動し、がん看護専門看護師の養成およびがん看護の質向上に向けた取り組みを行っている。本学では、令和元年度は 38 単位のがん高度実践看護師教育課程の修了生を 1 名輩出し、2 名の修了生ががん看護専門看護師の認定を受けた。

2) がん高度実践看護師WGの活動

がん高度実践看護師コースは、高知県立大学 大学院を幹事校とし、平成 24 年度から 5 大学院でがん高度実践看護師 WG を組織し、1. がん高度実践看護師養成、2. がん医療における質の高いがん看護実践を推進し、第Ⅲ期の趣旨にそって取り組んでいる。各大学院においては、がん高度実践看護師養成のためのプログラムの運営、地域がん診療連携拠点病院などと連携して、中国・四国全地域にがん高度実践看護師を送り出すことと、がん看護の質向上への貢献を柱として活動している。



3) 高知県立大学の取り組み

高知県立大学大学院では、「1. がん高度実践看護師の養成」、「2. 看護職の看護実践能力の向上を目指す教育活動」の 2 つを活動のテーマとして、取り組みを行っている。

がん高度実践看護師の養成では、正規の 38 単位の教育課程のプログラムに加え、看護職の看護実践能力の向上を目指す教育活動としてリカレント教育に重点をおいて取り組んでいる。高度実践看護師対象のリカレント教育として、がん高度実践看護師（APN）コースⅡを開講した。ジェネラリスト対象のリカレント教育としては、がん看護インテンシブコースⅠ、がん看護インテンシブコースⅡを行った。

(1) がん高度実践看護師の実践力を豊かにする取り組み

令和元年度は、38 単位のがん高度実践看護師教育課程の修了生 1 名を輩出した。がん看護実践看護師教育課程に加え、がん看護実践を豊かにする取り組みとして、以下のような取り組みを行っている。

①がん高度実践看護師（APN）セミナー

日 時：2019年6月6日（木）～7月26日（金）（このうち6日間）

場 所：高知県立大学看護学部棟 C322

参加者：各回2～3名（がん看護学領域学生）

高知県内で活躍する修了生のがん看護専門看護師より、高度実践看護師としての役割機能別の活動や各々の立場における活動の実際について話していただき、学生は先輩の活動から、CNSの役割機能を具体的にどのように活用するかということや、高度な看護実践とは何かを考え学ぶことができ、自身の目指す高度実践看護師に向けての課題を見出すことができていた。

②5 大学院がん看護学合同セミナー

日 時：2019年8月24日（土）、8月25日（日）

場 所：徳島大学

テーマ：「がん患者におけるリンパ浮腫と症状マネジメントの実際」

講 師：井沢 知子 先生（京都大学大学院医学研究科 助教 がん看護専門看護師）

今井 芳枝 先生（徳島大学大学院保健科学研究部 准教授）

参加者：7名

がん高度実践看護師 WG の大学院に在籍するがん高度実践看護師コース大学院生を対象としたリンパ浮腫ケアセミナーを毎年開催しており、本学からは2名の学生が参加した。学生は講義と演習を通して、リンパ浮腫のメカニズムや症状マネジメントの実際を学修することができた。そして、高度実践看護師は、患者が継続できるセルフケアを習得できるようエビデンスのあるケアを提供することや、関連する多職種と連携し、チームで継続したケアを行えるよう調整する役割を担うことを改めて学ぶ機会となった。

③専門看護師教育課程の強化：がん高度実践看護師（APN）コース I

◆Life を支える高度実践看護師養成コース

～がん患者と家族のライフステージのニーズに応える高度実践看護師養成～

目 的：がん患者と家族のライフステージのニーズに応えるがん高度実践看護師および、がん看護をサブスペシャリティーとする高度実践看護師の養成を目的とする

対象者：高度実践看護師コースに在学中の学生

コース内容：がん高度実践看護師（APN）コース II と同じ

参加者：4名

④リカレント教育：がん高度実践看護師（APN）コースⅡ

◆がん看護の専門性の高い看護師養成コース

～Cancer Trajectory をたどる人のニーズに応える高度実践を創造する
看護師の養成～

《コースの概要》

目 的：ライフステージやがんの特性を考慮して、がんとともに生きる人とその家族の健康
と生活に関わるニーズに応えられる専門性の高い実践ができる看護師の養成

対象者：専門看護師、修士課程修了生、がん看護領域の認定看護師

テーマ：AYA 世代がん患者のケアとキュア

履修科目：4 単位 60 時間

AYA 世代がん看護基盤論 AYA 世代がん診断治療学

AYA 世代がん看護実践論

AYA 世代がん看護展開論

履修期間：2019 年 9 月 7 日(土)～2020 年 2 月 2 日（日）（このうち 8 日間）

修了要件：コースで定める 60 時間のうち各科目 8 割以上履修した者には、高知県立大学から
の修了証を交付

場 所：高知県立大学池キャンパス看護学部棟 3 階 C310 他

参加者：11 名

がん高度実践看護師（APN）コースⅡは、専門看護師・認定看護師のリカレント教育を目的としたプログラムである。2019 年度は『AYA 世代がん患者のケアとキュア』をテーマに、AYA 世代がんの診断や治療に関する知識、AYA 世代がん看護に関する専門的な知識と技術を学び、AYA 世代のライフステージにあるがん患者のニーズに対応することのできる専門性の高い看護実践力の修得を目指して実施し、11 名の修了生を輩出した。研修生は高知、香川、愛媛、徳島、広島から参加しており、がん看護専門看護師、小児看護専門看護師、がん化学療法看護認定看護師、がん放射線療法看護認定看護師、がん性疼痛看護認定看護師、感染管理認定看護師であった。

8 日間のコースでは、講義やグループワーク等で知識を修得したのち、最後の 2 日間は、既習の理論や現状、課題をふまえ、AYA 世代がん患者の特徴を有する 4 事例についてグループワークによる展開を行い、看護援助モデルの作成を行った。

《研修生の学び》

受講生からは、「理論や概念を統合してアセスメントすることで、対象者を多面的に捉えられることを学び、グループワークを通して講義で学んだことへの理解を深めることができた」「AYA 世代特有の発達課題や、抱える問題について理解することができた」「発達理論や移行理論など、成人ではあまり使わない理論について学ぶことができた」「実際の事例をグループ内で検討することで、具体的な看護ケアができたので、実践に活用できると感じた」などの声が聞かれており、AYA 世代がん患者の特徴をふまえた生活の質向上を目指した看護の専門的知識を修得する機会となっていた。また、実際の事例を用いて看護援助モデルの作成を行ったことで、修得した知識の実践への活用の仕方を学ぶことができ、今後の看護実践の基盤となる研修になったと考える。

(2) 看護職の看護実践能力の向上を目指す教育活動

①リカレント教育：がん看護インテンシブコース I

～高齢がん患者に安心をもたらすケアを創造していく訪問看護師育成～

《コースの概要》

目的：高齢がん患者の入院早期から退院後の生活を見通してケアを提供し、在宅医療の可能性と選択肢を広げることのできる看護職および、チーム医療を基盤とする在宅がん医療をコーディネートしていくことのできる、高齢がん患者とその家族のケアに関する専門的知識と技術を有する看護職の養成

目標：

- 高齢がん患者や家族の理解に必要な基礎的な知識を習得し、高齢者の特徴を踏まえた総合的なアセスメント、看護ケアが実施できる
- 高齢がん患者のがんや治療、生活の場の特性を理解して、治療・療養・生活過程を支えるケアを提供することができる
- 地域包括ケアシステムにおける高齢がん患者や家族のケアに必要な専門的知識・技術を習得し、必要な資源や支援を調整することができる
- 高齢がん患者の在宅療養生活を維持するための必要な身体管理の知識・技術を習得し、実践できる
- 高齢がん患者の意向を尊重したその人らしい療養生活や看取りを実現するために必要なケアが実践できる
- 看取りをした遺族に必要な看護ケアを理解するとともに、関わった職種のスプレスマネジメントが行えるように、デス・カンファレンス等の場を調整することができる
- 研修を通して自己洞察を深め、高齢がん患者に対する専門性の高い看護師としての意識をもち、病院と在宅をつなぐ在宅療養支援および看護実践力の高い訪問看護師として機能することができる

対象者：中国・四国地方に在籍する、高齢がん患者の看護に携わる訪問看護師および在宅移行支援の必要な高齢がん患者の入院病棟および外来、地域連携室等の看護師

研修期間：講義・演習 2019年10月5日(土)～2020年2月16日(日) うち11日間

見学実習 2020年1/14(火)～2/6(木) うち平日の3日または4日間

履修内容：講義、演習、見学実習、実数の振り返りと事例検討を含めた90時間

(表1 カリキュラム表)

修了要件：コースで定める60時間のうち各科目8割以上履修した者には、高知県立大学からの修了証を交付

場所：高知県立大学池キャンパス看護学部棟3階 C313、C112

参加者：6名

平成30年度より新たにスタートしたがん看護インテンシブコースIは、高知県の在宅高齢がん看護、高齢者看護、在宅医療や福祉に携わる機関や多職種と協働し、高齢がん患者のケアに特化した研修である。また、座学だけでなく、e-learning、シミュレーション教育を取り入れ、講義・演習・実習をつなげる15日間の現任教育のプログラムである。令和元年度の受講生は6名であり、高知県内で訪問看護ステーション、在宅療養支援診療所、急性期病院に勤務する看護師であった。

《研修生の学び》

「日頃行っているケアで悩んだ時など、講義で得た知識を活用して違った視点で捉えることができれば、問題解決の糸口になると思う」、「医療の場や在宅だけで完結するのではなく、様々

な職種の特徴や強みを活かしてそれぞれの役割を果たしていくことが療養者や家族の満足につながるかと再認識した」、「その人らしい療養生活や在宅看取りの実践に必要な倫理や意思決定支援について、理論なども踏まえて考え、実践につなげていく必要性を再確認することができた」、「日頃行っている実践の振り返りと、高齢者を理解するための知識や視点を学ぶことができた」などの声が聞かれており、高齢がん患者の在宅療養を支援するための様々な知識や技術を学び、新たな気づきや視野の広がりを得ることができていた。また、講師や研修生同士のネットワークも広がり、今後は、それぞれの場で研修の学びを発揮しネットワークを強化していくことで、高知県内における高齢がん患者の在宅療養移行支援及び訪問看護の充実につながると考える。

表1 カリキュラム表

	カリキュラムの内容	時間	方法
1	オリエンテーション	1	
2	高齢がん患者の QOL	2	講義
3	高齢がん患者と地域包括ケアシステム	3	講義
4	高齢がん患者の在宅療養移行支援	6	講義・演習
5	高齢がん患者の在宅生活におけるセルフケア	3.5	講義・演習
6	高齢がん患者の在宅生活におけるリハビリテーション	2	演習
7	高齢がん患者のアセスメント：身体的側面	1.5	講義
8	高齢がん患者の治療 ①がん化学療法 ②がん放射線療法 ③ストーマおよびストーマ周囲の皮膚トラブルに対する看護 ④看護がんの治療により生じる有害事象への看護（口腔ケア）	8.5	講義・演習
9	高齢がん患者の在宅での症状マネジメント ①疼痛 ②倦怠感 ③呼吸困難	9.5	講義・演習
10	高齢がん患者の在宅医療	2	講義
11	高齢がん患者とコミュニケーション	2	講義・演習
9	高齢がん患者の認知とケア	3.5	講義・演習
10	高齢がん患者の意思決定支援	4	講義・演習
11	高齢がん患者の家族と家族ケア	3.5	講義
12	高齢がん患者の看護倫理	3.5	講義・演習
13	高齢がん患者の栄養	2	講義・演習
14	高齢がん患者のエンド・オブ・ライフと在宅での看取り	5	講義・演習
	見学実習 3～4 日間（下記の中から選択：複数可） ①訪問看護ステーション ②在宅療養支援診療所 ③調剤薬局 ④がん診療連携拠点病院	18 (24)	実習
15	実習の振り返りを交えた事例検討と修了式	7.5	事例検討

②リカレント教育：がん看護インテンシブコースⅡ がん高度実践看護師 WG 講演会

日 時：2019年12月14日（土）13：00～16：40

場 所：高知県立大学池キャンパス 看護福祉棟 2階 F206 講義室

テーマ：働く世代のがん患者を支えるがん看護

講師／テーマ：

「働く世代のがん患者に関する現状と課題」

江崎 治朗 先生（高知県健康政策部健康対策課 課長）

「がん患者の就労支援と看護師の役割」

小迫 富美恵 先生（横浜市立市民病院 がんセンター担当副部長 がん看護専門看護師）

参加者：25名

がん高度実践看護師 WG では、「がん患者のライフステージの様々な新ニーズに応える高度な看護実践の展開」を5年間の全体テーマとし、令和元年度は「働く世代のがん患者を支えるがん看護」をテーマに講演会を開催した。

講演会には、高知、愛媛、香川、徳島、岡山、広島から、就労支援に関心の高い25名の方の参加があった。参加者全員が「働く世代のがん患者を支えるがん看護」について具体的に分かったと回答し、同様に参加者全員が講演内容に満足したと回答していた。さらに、看護師（67%）、教員（17%）の他、大学院生（11%）、他職種（5%）と、医療従事者だけでなく、教員や看護大学院生など様々な方の参加があり、多様なニーズに応えることができた講演会であったと考えられた。また、参加者は、「がん看護に対する視野が広がった（27%）」「今の仕事とがん看護を関連付けて考えるきっかけとなった（14%）」「がん看護に対する興味・関心が高まった（12%）」と回答し、参加者の80%以上がこの講演会が「がん看護の専門的な学習を深める意識を高める動機づけになった」、「がん看護のキャリア・アップを目指す動機づけになった」と回答していた。さらに、講演会を通して、「就労支援に関する自分の県の施策について知っておくことが大切だと思いました」、「就労支援を行っていく上での情報整理や、具体的な支援内容がイメージできたので活用できる」、「職場で就労に関するニーズを把握すること、情報共有の重要性、リソースの活用方法を知っておくことが大切だと思いました」などの意見があった。これらのことより、講演会はがん患者の就労支援に対する参加者の関心をより高め、学びを実践にも活かせる内容であったと考える。

4) おわりに

多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェSSIONナル）」養成プランに採択された、中国・四国の「全人的医療を行う高度がん専門医療人養成」において、がん高度実践看護師 WG の幹事校として活動を行った。今年度は、2名のがんプロ学生を迎え、4名の学生ががん高度実践看護師教育課程で学修した。現在、39名の修了生ががん看護専門看護師として全国で活動している。

今後は、養成人数の継続・維持に加え、38単位の教育課程を修了した CNS が、所属施設やがん医療の中でどのような成果、変革をもたらすか（したか）等のアウトカムを可視化する方策を検討する必要がある。また、リカレント教育については、今年度の内容を評価・修正し、次年度も質の向上を図っていく。